2022年度活動概要　　リーディング研究会

本研究会は言語処理のプロセスに着目しながら，日本人ＥＦＬ学習者の読解システムについて理解を深めること，そしてＬ２の読みの諸理論に基づいた効果的なリーディング指導を探求することを目的として活動しています。特に，処理の自動化，読みの流暢性を主なテーマとして，その観点から L2 読解プロセスの詳細を掘り下げるだけではなく，シャドーイング・音読の流暢性への効果，効率向上の練習，多読の効果などを含めてリーディング授業の実践面に関わるテーマに関連した研究も重要視しています。

本年度も，実証・実践研究発表と輪読の二本立てを原則として毎月 1 回研究会を開催し，これらの目的達成のために活動してきました。本年度は，昨年度から使用している Schwieter and Benati (eds.)(2019) The Cambridge Handbook of Language Learning の輪読を行いました。発表後の議論や意見交換を通して，専門分野に関するお互いの知見を深めることができました。32 もの Chapter が集約されているのため，次年度も引き続き使用いたします。会員による研究発表も輪読に続いて毎回行いました。活発な意見交換を通して，参加者全員にとって新たな研究視点の発見につながったものと思われます。

コロナ禍におけるオンラインでの研究会活動に加え，今年度からは対面と両立させた「ハイブリッド型」へと移行が容易に行われました。 絶やすことなく継続できましたので，昨年と同様，2022 年度の活動も成功裡に終わったと考えます。次年度以降もこの形態を維持しながら，With コロナの新しい常識に向き合い活動を続けていきたいと思います。また，近年，隣接する学問領域の協業的研究が盛んになったことを踏まえ，既存の専門の枠にとらわれず変化に対応できる柔軟性を持ち，専門性を欠くことなく変化に対応する能力を併せ持つことを目指し，さまざまな広範な視点から学際的な研究を推し進め，今後もさらに活動の幅を広げて行きたいと考えています。